

世界展開力長期留学報告書

東京農業大学 国際農業開発学科3年 森 巧大

留学先 メキシコ チャピンゴ自治大学

私は2018年8月～2019年2月の約半年間、メキシコのチャピンゴ自治に留学していました。私の中で大学在学中に、留学に行き海外で生活することが一つの目標のようなものでした。海外について意識しだしたのは高校生の頃でした。特にきっかけがあったわけではないのですが、漠然と海外に行っているいろいろな経験をしたいと思いました。なので私は陶業農業大学国際農業開発学科に入学しました。

一年生の夏休み、私は世界展開力の短期留学で2週間メキシコを訪れました。今振り返ってみると、1年生の夏休みという時期に海外に来れたことは私の人生において相当貴重な体験だったと思います。大学に入ったら留学に行こうという漠然とした目標はありました。しかし、どこの国へ行き何を勉強しようなどという具体的なことは全く考えていませんでした。最初は短期留学でも長期留学でも2年生になったくらいに行けばいいと思っていました。そんなときに学生ポータルを見ていたら、世界展開力の短期留学の追加募集の案内が出ていました。留学は2年生からでいいと思っていましたが、この追加募集の案内を見つけた時、応募してみようと思いました。なので特別、メキシコに行つて勉強したいことがあるわけではありませんでした。ただ、目の前にチャンスがあったので挑戦してみようと思いました。結果としてこの時の私の決断は私の人生に大きな影響を与えました。初めて行った中南米の国メキシコで、日本とは異なる文化を感じ、大きな衝撃を受けました。現地に着いて授業を受け、インターンシップを行う中で感じたことは、言葉についてでした。スペイン語は全く分からなかったので英語で通訳してもらっていました。そんな中、もしスペイン語が話せたら、と考えることが何度もありました。もっといろいろな人と話したい、と思うことが多くなりました。そのため帰国してからは英語の勉強を必死にしました。スペイン語の前に英語ができないと話にならないと思ったからです。もちろんスペイン語も少しずつ勉強しました。その中で、他の国も訪れてみたいと思うようになりました。また、将来は海外で働きたいと考えるようになりました。それからの日々は、平日は勉強とバイトをしてお金を貯め、夏休みや春休みになるたびに3週間程度海外に行つて農業実習などをしてきました。ここ、メキシコに長期留学に来る前に、パラグアイ、ケニアそしてペルーなどに行きました。これらの国で農業の実習が出来たのは国際農業開発学科の教授方のお力添え、また海外で活躍している東京農業大学のOBの方々のおかげでした。海外で農業に関わる仕事をしているOBの方々からいろいろな刺激を受け、海外で働くことへの意欲がさらに増しました。

しかし、なぜ最終的に長期留学先をメキシコにしたかという、やはり一年生の時にメキシコに来た時の衝撃が大きかったからだだと思います。言葉、人、食事、文化、まだ日本以外

を何も知らなかった私にとっては全てが新鮮で印象深かったことでしょう。なので無意識のうちに、どこかでメキシコのことを意識していたと思います。

なぜ英語の方が重要だと思っているのにスペイン語圏であるメキシコを選んだかという、単純なのですが、日本人でスペイン語を話せる人の方が少ないと思ったからです。英語なら日本である程度勉強する機会もあり、また私の学科の大学院生には外国人の方が多く、研究室活動を通して英語で会話する機会があったので、より日本で勉強するのが困難なスペイン語を勉強するほうがいいと思いました。また、友達に英語がペラペラな子たちが何人かいて、それをかっこいいと思っていました。そこで私は英語ではなくスペイン語を話せたらもっとかっこいいんじゃないかと思いました。私の性格上、人と同じことをしたくないので、スペイン語をペラペラになってやろうと思いました。

このような経緯からメキシコへ長期留学に行くことを決めました。

約6ヶ月前メキシコに来ました。期待と不安で胸がいっぱいでした。しかし、私の中では日本を出て、これからメキシコでスペイン語を勉強するというわくわくする気持ちが大きかったです。今でも初めて授業の教室に行った時のことを覚えています。とにかく周りにはメキシコ人しかおらず、もちろん不安もありました。しかし、留学生の日本人である私に興味を持って話しかけてくれる子たちがいて、その不安もなくなりました。

ここからはメキシコでの生活を、勉強、私生活について分けて書いていこうと思います。

まず、勉強について。メキシコに着いて2カ月くらいは、まだスペイン語が分からず苦労しました。日本で事前に勉強してきたのですが、やはり机に向かってやってきた勉強はいざ会話をするとなった時に役に立ちませんでした。もちろんその勉強は無駄ではなかったのですが、話さないと言語は上達しないと思いました。なので分からなくてもなるべく話す努力をしました。とにかく積極的になんでも取り組みました。授業は全く分からなかったもので、授業中はひたすら黒板を写しました。そして授業の後に友達たちに英語とスペイン語で教わり、寮に帰ってからは辞書を使い、授業のノートを理解するという毎日でした。私は日本から和西西和辞書を持ってきたので毎日、それとにらめっこをしていました。インターネットも普及していてパソコンなどにスペイン語の文を打てばGoogleで簡単に翻訳してくれますが、あえて紙の辞書を使っていました。なぜなら紙の辞書だと、調べた単語以外にもたくさんの単語が同じページに並んでおり、より勉強になるからです。また、私が持ってきた辞書はよく使う単語や動詞、形容詞などが赤字で表記されていたのでとても便利でした。調べた単語は全てノートの横にメモしていきました。授業のノートは左側を4分の1程度空けて、そこに授業後に調べた単語と意味を書くようにして、見直したときに分からない単語がすぐ見つけられるようにしていました。やはりよく出てくる単語はすぐ覚えられました。調べた単語は全て黄色いマーカーを付けていたので今では辞書がマーカーだらけです。紙の辞書だと調べるのに時間がかかってしまいましたが、外国語を勉強するに

は時間をかけてコツコツやっけていかないといけないと思います。楽しんで素早くやろうとして失敗するよりも、時間をかけてコツコツ勉強していく方法の方が外国語を生部場合は適していると思います。私が在籍していた学科が FITOTECNIA という農学系の学科だったので、専門用語もたくさん出てきました。単語を勉強するとき、専門用語はとても難しいので、あまり深追いはせず、何となく意味が分かる程度でやっていました。専門用語まで全力でやってしまうと日常で使う言葉の勉強が出来なくなってしまいますからです。授業の理解も大切ですが、私にとっては日常会話レベルのスペイン語の習得が早急の課題でした。この問題の一番有効的だった解決方法としては、とにかく話すことです。私が住んでいる寮は家のような感じでした。1つの家に3つの部屋とリビング、キッチンがあり、各部屋に2人ずつ住んでいました。また、この家が9軒横並びにあり、留学生たちの大半はここに住んでいました。私の家は、私を含めた日本人2人と、4人のアルゼンチン人と住んでいました。このため寮にいるときもスペイン語をかなり使いました。食堂に行くときは、他の留学生たちと一緒にいくようにし、また、サッカーをしに行ったりしました。とにかく他の留学生やメキシコ人の友達とたくさん話すことを意識していました。寮のリビングで日本から持ってきたスペイン語の文法書をやっていて分からないところはアルゼンチン人の友達に聞いていました。このようにしてスペイン語を勉強していました。

大体3か月くらい経ったところで日常的なスペイン語の会話ができるようになってきました。ポキャブラリーも増えてきたことで授業の内容も授業中に理解できる部分が多くなり、復習にかかる時間も短くなっていきました。ちょうどこのくらいの時期から、時間に余裕ができたので動詞の点過去形、線過去形そして未来形の勉強の勉強をし始めました。過去形、未来形が分かるようになると話すことのできる幅が飛躍的に広がります。例えば、「今日は授業の実習で農作業をしてきた、Trabajé en el campo」、「明日はメキシコシティに行くつもり、Iré a Ciudad México」などのような会話が出来、自分が何をしているか、また、していたかが表現できるようになりました。また現在分詞を使えるようになると進行形が使えるので、友達とメッセージしているときなどに、「私は勉強している、Estoy estudiando」、「今向かっている、Estoy caminando」などと自分の状況も表現できるようになりました。会話ができるようになっていくことがとても楽しかったです。「海外で生活すれば自然と言葉は話せるようになる」と、私は聞いたことがありましたがこれは間違っていると思います。正確には「海外で生活し、かつ、言葉の勉強をそれなりの時間をかけてやって初めて話せるようになる」だと思います。なのでこれから外国語を習得しようとしている人がいたら、それなりの努力と時間が必要なことを覚えておいてください。

少しずつスペイン語の壁を克服しつつある私でしたが、10月後半に大きな壁にぶち当たりました。それは中間テストです。この期間はとにかく授業のノートの見直しや、植物の灌漑の授業で出てきた公式の暗記、例題の解きなおしなどをしていました。Principio de Riego Agícola、これが植物の灌漑の授業なのですが、日本で習ってこなかった計算式がたくさん出てきて苦戦していました。しかし、ルームメイトのアルゼンチン人たちが幸いにも同じ

授業を取っていたので教えてもらい、なんとか乗り越えることが出来ました。彼らにはとても感謝しています。

丁度この中間テストの後に、授業の旅行がありました。3泊4日で大学のバスに乗り、少し離れた農場に行き、無農薬栽培の勉強や市場の見学などをしました。車窓からの景色が日本では見たことのない壮大な自然でした。穏やかな気持ちになりました。

この後は12月の初めに期末テストがありました。中間テストのときに相当勉強したので期末テストではそこまで勉強することがなかったのですが、とにかく不安だったので何度も見直しをしました。しかし、植物の灌漑のテストは問題文がややこしすぎて全然できませんでした。あれだけ勉強してできないのならばしょうがないや、というくらい復習をしたので後悔はありませんでした。

次に私生活について。授業以外の時間も勉強していることが大半でした。メキシコに着いてすぐは特にそうでした。しかし、休日は他の留学生たちと TEOTEIHUACÁN, XOCHIMILCO, メキシコシティなど観光に行きました。まだあまり言葉が分かりませんでした。話しているうちに少しずつ何を聞かれているのかが分かるようになりました。最初に留学生みんなで訪れた TEOTEIHUACÁN は一番印象に残っています。まだメキシコについて1週間も経っていませんでしたので、スペイン語がほとんど話せない私に対しても皆優しく接してくれたのを覚えています。家に一緒に住んでいるのがアルゼンチン人だったこともあってか、アルゼンチン人たちととても仲が良かったです。XOCHIMILCO では、船に乗って運河のようなところを回りました。やはりラテンアメリカからの留学生が多いので、とても賑やかで船の上がお祭りのようでした。それ以外にもすれ違うほかの船に MARIACHI が乗っていて、隣に来て演奏してくれました。MARIACHI とはメキシコの音楽を演奏してくれる楽団のことです。メキシコに来て2週間程度で日本とは全く違う文化を目の当たりにして衝撃を受けました。またラテンアメリカの国からの他の留学生たちはみなダンスが踊れることも衝撃でした。ダンスと言ってもヒップホップダンスのようなものではなく、日本で言う社交ダンスのようなものです。音楽がかかると男の子と女の子が手を取り合い踊りだします。日本人的感覚だと女の子と手をつないで踊るといのは、どこか気恥ずかしさがありますが、こちらはそんなことはなく、みんな空いてる人を見つけてはダンスをするといった感じでした。最初は踊るのが恥ずかしかったのですが、慣れて踊れるようになってくると、だんだん楽しくなりました。

食事は大学の食堂で食べていました。3食1か月で1450PESO でした。日本円にすると大体9000円くらいです。チャピング自治の学生のほとんどすべてが利用するのでお昼などは特に込み合っていました。メニューは様々ですが、基本的にトルティージャは毎食出てきます。日本で売られている小麦のものではなく、トウモロコシから作られているものです。朝晩は軽めの食事で、昼に肉や魚などのボリュームのある料理が出てきました。おかわりが自由なのでお腹がすいてるときはたくさん食べていました。また、魚は大体週に1回し

か出ないので、魚が出た時は何回もおかわりに行っていました。私は魚が好きだからです。PROVECHO という言葉を食堂や食事している最中によく耳にしました。最初、意味が分からなかったのですが、自分が食事を終えて席を離れるときに、隣や近くに食事中の人がいるとこの言葉を使います。日本語にするのが難しいのですが、相手に対して「ゆっくり召し上がれ」的なニュアンスの言葉です。PROVECHO と言われたときは GRACIAS と返すのが一般的です。GRACIAS はありがとうという意味です。

私はサッカーをずっとやっていたのでメキシコでもやりたいと思っていました。今学期の留学生はアルゼンチン人が多く、みなサッカーが大好きでした。なのでよく大学のグラウンドに行きサッカーをしました。大体、週に2回、2時間くらいやっていました。私たちは留学生チームとして、メキシコ人チームと試合をしていました。初めてサッカーに行った時はみんなの本気度に驚きました。遊び程度と思っていた私は、試合で、全力でぶつかってくるメキシコ人や死に物狂いでボールを追いかけるアルゼンチン人を見てとても驚きました。日本人が思っているサッカーとラテンアメリカの人たちが思っているサッカーは全く別物だと思いました。とにかくすべて全力です。また、サッカーがうまい下手は関係なくみんなで全力でやるといった感じでした。ラテンアメリカの国が強い理由が少し分かった気がします。メキシコでの運動はなかなか大変でした。なぜなら私が住んでいた地域は標高が2000メートル近かったので少し走るだけですぐ息切れしてしまうからです。なので初めの一ヶ月くらいはサッカーが大変でした。しかし徐々に体は慣れていくもので、気づくと何ともなくなっていました。今思い返してみれば、サッカーをここでやれたことはとても貴重な経験だったと思います。サッカーをしているときももちろんスペイン語なので運動しながら勉強もできるので一石二鳥でした。

9月19日はメキシコの独立記念日であり、お祭りでした。大体1週間前から大学内がメキシコカラーに装飾され始め、大学の中央の広場近くに遊園地の様なものが出来ました。人がたくさん集まり、花火が上がり、大盛り上がりでした。メキシコの人だけではなくラテンアメリカの人たちは自分の国に対して誇りを持っています。日本人としての誇りももちろんありますが、もっと情熱的で熱狂的なものを彼らは持っていました。その証拠にラテンアメリカからの留学生たちはみな自分の国の大きな国旗を持ってきていました。

9月後半から10日間、FERIA というお祭りがありました。メキシコの各州の食べ物や民芸品のお店が大学内に集まっていました。一度にメキシコ中の文化を体験できるいい機会でした。特に食べ物は地域によって異なっていて、この期間中は食堂に行かず、毎回FERIAに来て買って食べていました。焼いたサソリなども売っていて面白かったです。サソリはあんまり美味しくなかったです。それ以外にも馬や牛などの家畜、爬虫類、魚なども売っていました。この10日間は毎日が楽しかったです。

ストライキがあつたりして授業がなくなったこともありました。何のストライキだったのかわかりませんが朝、授業に行こうと大学の正門へ行くと、人がたくさん集まって演説みたいなことをしていました。結局2日間授業がありませんでした。日本では考えられない

様なこともメキシコでは普通に起こります。

私はアルゼンチン人たちと仲が良かったので、アルゼンチンの文化も勉強することが出来ました。特に毎日飲んでいて、MATE は私にとって欠かせないものでした。MATE という入れ物に YERBA という葉っぱを入れ、そこにお湯を注ぎます。そして最後に BOMBILLA を差し込んで完成です。日本ではマテ茶として販売されていますが、味は少し違うと思います。BOMBILLA はストローのようなもので、マテ茶を飲むときは BOMBILLA で吸います。お湯を入れて無くなったら、次の人に回していくというスタイルです。アルゼンチン人の友達たちは毎日飲んでいました。授業に行くときも持って行っていました。私も毎日飲んでいたので、とても身近なものになりました。彼らが MATE, BOMBILLA をくれたので日本でも飲むことが出来ます。

まとめとして、メキシコに来てまさかアルゼンチン人の友達がたくさんできるとは思いませんでした。またそれ以外にも、コロンビア、フランス、ペルー、チリ、ベネズエラ、ブラジル、などメキシコ以外の友達もたくさんできました。私がいまだにスペイン語を話せないときからとても親切にしてくれ、少しずつ話せるようになるにつれて、話しかけてくるスピードを速くしてくれたり、とても親切でした。スペイン語の習得のための語学コースがなかったため、彼らと遊び、話したことによって私のスペイン語は上達しました。とにかく感謝しています。また、スペイン語が分からなくても、ダンスが分からなくても、何事にも積極的に挑戦できたからこそ、今の自分があると思います。日本人は恥ずかしがりやで人前に出ることや、大学の授業中に手を挙げて質問する生徒などほとんどいません。しかし、ここではその全てが当たり前で、恥ずかしいと思っていること、それ自体が恥ずかしいことでした。私もメキシコに来る前はやはり日本人的な感覚を持っていたので、どうしても恥ずかしさがありました。しかし、今では少しラテンアメリカ的な感覚を身につけられたと思います。友達たちに「お前は日本人じゃなくて、ラテンアメリカ人だ」と言ってもらえるくらいになりました。日本人は挑戦すること、できないことをやろうとすることを恥ずかしいと思う人が多くいるかもしれませんが、ここに来て私は、なんでも恥ずかしがらずにやってみることの大切さを学びました。日本でもこの気持ちを忘れずに日々を過ごしていきたいと思っています。

最後に、私の留学をサポートしてくれた教授、大学の職員の皆様、ここで出会った仲間たちには心から感謝しています。ありがとうございます。

Muchísimas gracias.